

講義コード	3J031012
講義名	フィットネス実習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J3-2411.HST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

相澤 慎太（健康運動指導士）

目的

トレーニングには全身持久力系、筋力・筋持久力系、柔軟性系、調整力系などがある。本講座ではこれらの能力を向上させる様々な運動（ウォーキング、ジョギング、ストレッチング、補強運動など）を安全にまた効果的に行う上で必要な知識と技術を学ぶ。また、トレーニング前後に必要な体調チェックやウォーミングアップ、クーリングダウンについても実践する。また担当教員の経験も紹介し、実践に役立つ知識を学習することを目的とする。

到達目標

健康増進の運動を理論だけでなく実践できるようになる。
健康運動の指導ができるようになる。

授業計画表

授業計画

1. ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論と実際
2. ウォーキングの実践①
3. ウォーキングの実践②
4. ジョギングの実践①
5. ジョギングの実践②
6. 全身持久力のトレーニング（ウォーミングアップとクーリングダウンの理論と実践を含む）
7. 全身持久力のトレーニング
8. 筋力・筋持久力のトレーニング
9. 筋力・筋持久力のトレーニング
10. 柔軟性系のトレーニング
11. 調整力系のトレーニング
12. 子供のフィットネスプログラム
13. 壮年（中年）のフィットネスプログラム
14. 高齢者のフィットネスプログラム
15. 女性のフィットネスプログラム 障害者のフィットネスプログラム

成績の評価

レポート課題50% 実技試験50%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は「健康運動実践指導者」、「スポーツプログラマー」および「トレーニング指導者」の認定科目となっている。

健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生は、当該科目を履修しなければなりません。当該科目は、その養成講座、「10、エアロビック運動の理論と実際（実技）」の内容も含まれます。（助）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマーを受験する学生も、当該科目を履修しなければなりません。当該科目はその養成講座の専門科目「1フィットネス・エクササイズの理論と実際、フィットネス・エクササイズと健康管理」の内容を含みます。

テキスト

健康運動実践指導者養成用テキスト（健康・体力づくり事業財団）

オフィスアワー

木曜日

12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟 3階 313研究室

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	3J072012
講義名	応急処置実習
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J3-2305.HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 金井 成行	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

金井成行(医師) 津田和志(医師) ・ 畑村育次(医師) ・ 尾原弘恭(柔道整備師) 中尾哲也(理学療法士)

目的

運動中に出現しやすい病態を把握し、その際の一次救命処置・応急処置について習得する

到達目標

緊急事態に適切に行動できる者を養成

授業計画表

授業計画

1. 運動中止の判定
2. 運動中に起こる疾患（外科） 1
3. 運動中に起こる疾患（外科） 2
4. 運動中に起こる疾患（外科） 3
5. 運動中に起こる疾患（内科） 1
6. 運動中に起こる疾患（内科） 2
7. やけど、けいれん、溺水
8. 救急、救助の現況
9. 一次救命処置の手順
10. 心肺蘇生
11. AEDを用いた救命処置
12. 気道異物除去、止血法
13. テーピング 1
14. テーピング 2
15. テーピング 3

【開講日程予定 8月

3日土曜	1-5限	尾原
5日月曜	3-5限	中尾
7日水曜	1-2限	畑村
8日木曜	3-5限	金井
23日金曜	3-4限	津田

ただし、金井、津田は13:30より授業開始】

注：突然の変更日程もあります

成績の評価

5人の講師による各20%配分の筆記試験、レポートを行う

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

健康・体力づくり事業団が認定する「健康運動実践指導者」、日本トレーニング指導者協会が認定する「トレーニング指導者」を受験する学生は、当該科目を履修しなければならない。

テキスト

「健康運動実践指導者養成テキスト」（（財）健康・体力づくり事業団）

オフィスアワー

金井：月曜日（昼休み）

津田：木曜日（16時～17時診療所にて）出張で留守の時もあるので事前に確認を入れて下さい。

中尾：月曜日～木曜日（12:30～13:00）

畑村：木曜日（1時～2時半）

尾原：水曜日13:00～17:00

実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ることをおすすめします。

研究室・授業用E-mail

研究診療棟

409研究室（金井）、405研究室（津田）、402研究室（畑村）、310研究室（尾原）

4号館

D719研究室（中尾）

講義コード	3J077011
講義名	画像診断学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3008
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 川島 洋司	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

川島 洋司〔診療放射線技師〕

目的

医療従事者に必要な画像診断法(エックス線・CT・MRIなど)の基本原理と特徴を学ぶ。

到達目標

正常画像と対比させ、代表的な疾患の画像所見を指摘できる読影能力の修得。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション
- 2～3. 各種撮像法の基本原理と特徴
- 4～5. 脊椎の画像診断
- 6～7. 上肢の画像診断
- 8～9. 下肢の画像診断
- 10～11. 骨盤・股関節の画像診断
- 12～13. 脳血管障害の画像診断
14. 一般的疾患(胸腹部など)の画像診断
15. まとめ

成績の評価

定期試験(90%)、小テスト(10%)にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

プリント配布

オフィスアワー

月～金 12:00～13:30

研究室・授業用E-mail

附属診療所検査室 kawashima@kansai.ac.jp

講義コード	3J119012
講義名	健康づくり概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J3-2410.HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

目的

少子・高齢化、要介護高齢者の増加、生活習慣病の増加、医療費の増加など社会を取り巻く環境は大きく変化し、健康づくりの重要性はますます増加している。一方、健康づくりには運動、栄養、休養の三本柱の重要性が知られており本講座ではこれらと健康との関わりについて学ぶ。また、メタボリックシンドロームに有効な有酸素運動や高齢者の転倒防止に有効な筋力トレーニング、柔軟性を増加させるストレッチングや運動を行う上で基礎となるトレーニングの原理などについての理解も深める。

到達目標

健康に関する現代社会の問題点を理解する。
健康づくりに有効な運動の知識を深める。
運動プログラムが作れるようになる。

授業計画表

授業計画

- 1.健康づくりとは、健康づくりに関する基礎知識①
- 2.健康づくりとは、健康づくりに関する基礎知識②
- 3.健康づくりのための身体活動基準2013と健康づくりのための身体活動指針①
- 4.健康づくりのための身体活動基準2013と健康づくりのための身体活動指針②
- 5.健康づくりのためのトレーニングの原則、運動量と運動強度①
- 6.運動量と運動強度②、運動時間、頻度、期間
- 7.健康づくりと運動プログラム作成の基礎①
- 8.健康づくりと運動プログラム作成の基礎②
- 9.ウォーミングアップとクーリングダウン
- 10.有酸素性運動とその効果
- 11.レジスタンス運動とその効果、健康づくりと運動プログラムのまとめ
- 12.健康づくりのための身体の機能①
- 13.健康づくりのための身体の機能②
- 14.健康づくりのための身体の構造、バイオメカニクス
- 15.体力測定と評価

成績の評価

定期試験を70%、小テストを30%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

前回までに学んだ内容の小テストを行うため、プリントや板書した内容について、十分復習すること。

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

(財)健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」、「JATI認定トレーニング指導者」を受験する学生は当該科目を履修しなければならない。

遅刻・早退は $\frac{1}{3}$ 欠席として計算する。

テキスト

「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)

参考資料

特になし

オフィスアワー

木曜の12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	3J122012
講義名	健康管理学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	J3-2304HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

津田 和志（医師）

目的

健康管理学は人間の健康の維持・増進に関する学問である。本講座では、健康は、運動、栄養、休養の調和のとれた生活を送ることが重要であるとの考えから、運動、栄養、休養と健康に関する知識を習得する。

到達目標

健康に影響を及ぼす様々な生活習慣や環境要因、健康を脅かす病気の実態についても予防医学としての視点から述べるとともに、不健康な生活は「介護予防」を早めることを理解させ、個人の健康管理が個人だけの問題ではなく、社会全体に対する問題であることも認識させる。

授業計画表

授業計画

1. 病気、健康、体力の概念(1)
2. 病気、健康、体力の概念(2)
3. 疾病構造の変化、健康づくりに果たす運動の役割(1)
4. 疾病構造の変化、健康づくりに果たす運動の役割(2)
5. 高齢化社会の傾向と現状、高齢者の健康管理
6. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(1)
7. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(2)
8. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(3)
9. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(4)
10. 運動による生活習慣病の予防効果(1)
11. 運動による生活習慣病の予防効果(2)
12. 運動による生活習慣病の予防効果(3)
13. 運動前のメディカルチェック
14. 救急時の対応(1)
15. 救急時の対応(2)

成績の評価

前期の試験（90%）、ならびに授業態度（10%）により総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

模範解答を掲示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習、復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は、「健康運動実践指導者」および「トレーニング指導者 (JATI)」の指定科目である。

テキスト

「健康運動実践指導者 養成用テキスト」
(健康、体力づくり事業財団)
履修希望者は必ずテキストを購入すること。

参考資料

「内科学」(朝倉書店)

オフィスアワー

木曜日内科外来終了後(内科外来にて15:30頃より)。会議、出張が多いので事前連絡必要。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 405研究室・tsudak@kansai.ac.jp

講義コード	3J159011
講義名	柔道実技
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	保健医療福祉と柔道整復の理念
科目ナンバリング	J3-2204
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 尾原 弘恭	指定なし

目的

柔道整復術のルーツである「柔道」について実践を通じて理解することを目的とする。
さらに「柔道」を実践することにより人間関係の構築や礼儀作法、お互いに尊重し協力しあうことの重要性など武道の道徳的価値についても学ぶ。

到達目標

柔道を含めた武道の道徳的価値を理解する。実践的には安全面に十分留意することができ、柔道の理合を理解し、受身を習得したうえで、相手を投げたり投げられたりできること。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 柔道衣の着方、礼法
3. 柔道での身体の使い方①
4. 固め技①（抑え技）
5. 固め技②（絞め技）
6. 固め技③（関節技）
7. 投げ技の原理と受け身①
8. 投げ技の原理と受け身②
9. 受け身①
10. 受け身②
11. 投げ技①
12. 投げ技②
13. 総合復習
14. 前期実技試験
15. 前期まとめ
16. 前期復習
17. 投げの形（浮落）①
18. 投げの形（浮落）②
19. 投げの形（浮落）③
20. 投げの形（背負投）①
21. 投げの形（背負投）②
22. 投げの形（背負投）③
23. 投げの形（支釣込足）①
24. 投げの形（支釣込足）②
25. 投げの形（支釣込足）③
26. 投げの形復習①
- 27.

投げの形復習②

- 28. 総合復習
- 29. 後期実技試験
- 30. まとめ

成績の評価

前期と後期それぞれ実技試験（あるいはレポート：70%）を実施し、授業への取り組み度（30%）と合わせて総合評価して判定する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実技試験（あるいはレポート）終了後に解説し、不合格者に対しては個別指導を実施する。

自己学習

体調管理や外傷防止に留意し復習すること。
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

規定の柔道衣（ゼッケン付）を着用すること。着用の無い場合は欠席とすることがある。

テキスト

特になし

参考資料

特になし

オフィスアワー

前期：水曜日13:00～17:00

後期：木曜日13:00～17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階310研究・ohara@kansai.ac.jp

講義コード	3J160011
講義名	柔道整復関係法規
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	保健医療福祉と柔道整復の理念
科目ナンバリング	J3-2203
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 廣岡 聡	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

廣岡 聡〔柔道整復師〕

目的

基礎法学、医療資格法規、医療法、社会保障などに関する法令を講義します。特に柔道整復師の資格法は重点的に講義を行い、業務がどのように担保されているのか、施術所開設の手続きなどを学び、柔道整復師として地域医療への社会貢献について考える力を養って欲しいと思います。

到達目標

柔道整復師は、施術所を開設する。または施術所、医療機関、介護施設などで業務に従事すると、医療危機管理の意識、患者の利益保護、患者の意向に沿った医療提供など様々な義務や責任、コンプライアンスが求められることから医療人として社会のために何を実践していく必要があるのかを法令を通じて学び、国家試験において高い得点を取得してもらうことを目標とします。

授業計画表

授業計画

- I. 基礎法学
 - 1.法及び法の分類
 - 2.法の体系
 - 3.罰則
 - 4.基本的人権、インフォームド・コンセント、国民医療費、療養費と受領委任
 - 5.医療機器管理、医療訴訟
- II. 柔道整復師法
 - 1.法の沿革
 - 2.第1章 総則
 - 3.第2章 免許<欠格事由>
 - ①行政手続法 ②行政不服審査法
 - 4.第2章 免許<登録> 第3章 試験
 - ①免許証 ②指定登録機関 ③指定試験機関
 - 5.第4章 業務
 - ①個人情報保護法 ②診療放射線技師法 ③薬剤師法
 - 6.第5章 施術所
 - 7.第6章 雑則
- III. その他
 - 1.医療法
 - 2.医事法規1<医師法、保健師助産師看護師法など>
 - 3.医事法規2<臨床検査技師法、救急救命士法など>

成績の評価
筆記試験 (100%)
定期試験、レポート等に対するフィードバック
定期試験終了後、模範解答を開示する。
自己学習
授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。 授業資料を配布するので、事前学習をし、疑問点は質問すること。 また、医療に関する報道などは敏感にチェックするようにしてください。
テキスト
「関係法規 改訂第2版」(医歯薬出版) 授業用・定期試験用・国家試験用プリント資料

講義コード	3J171012
講義名	食品栄養学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J3-2409.HST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 黒木 知美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

黒木 知美（栄養士、管理栄養士）

目的

私たちは食事をとることによって、生命を維持し、発育・成長し、健康を保持増進している。必要な物質を体内に取り込み、利用することを栄養といい、その仕組みについて学ぶことが栄養学である。また、スポーツに関する栄養ケアマネジメントを行えるよう、対象者について幅広く理解を深めていくことを目的とする。

到達目標

生体内での栄養素の役割および代謝について学び、栄養学の全体像をつかむ。また自身が実施しているスポーツに応用することができる。あらゆる年齢階層、競技レベルのアスリートに対しての栄養サポートができるようスポーツ栄養士やスタッフとの連携が取れるようになることができる。

授業計画表

授業計画

1. 栄養と栄養素
2. 5大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、無機質）
3. 日本人の食事摂取基準
4. 消化、吸収および排泄
5. エネルギー代謝と運動
6. 食品と体の成分、身体組成
7. 運動と栄養ケア（グリコーゲンの補給と回復）
8. 栄養欠陥に基づく疾病と対策（スポーツ貧血、骨障害）
9. 病態と栄養（糖尿病）
10. 病態と栄養（脂質異常症、高血圧）
11. 病態と栄養（腎臓病）
12. 病態と栄養（貧血、脱水）
13. 病態と栄養（食物アレルギー）
14. 特定保健食品、栄養補助食品（サプリメントとエルゴジェニック）やその表示
15. ライフステージと栄養

成績の評価

試験（60%） レポート、ノート提出（30%） 小テスト（10%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
授業ノートを作り、配布プリントとともに平素からまとめておくこと。

履修上の注意

健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者、日本スポーツ協会公認スポーツプログラマーを受験する学生は当該科目を履修しなければならない。

テキスト

授業時に必要に応じてプリントを配布する。

参考資料

7訂日本食品標準成分表

オフィスアワー

金曜日 16:00-16:30

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 講師控室

講義コード	3J202011
講義名	整復学各論Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3004
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 石井 規之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

石井 規之〔柔道整復師〕

目的

前腕部から手指部の骨折・脱臼・軟部組織損傷についての知識の習得。

到達目標

国家試験および臨床に対応する能力の達成。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 前腕骨近位端部骨折
3. 前腕骨骨幹部骨折
4. 前腕骨遠位端部骨折
5. 手根骨骨折
6. 中手骨骨折
指骨骨折
7. マレットフィンガー（ハンマー指）
手指骨折の後療法について
8. 遠位橈尺関節脱臼
橈骨手根関節脱臼
9. 舟状骨脱臼および月状骨周囲脱臼
手根中手（CM）関節脱臼
10. 第1指中手指節（MP）関節脱臼
第1指以外の中手指節（MP）関節脱臼
11. 近位指節間（PIP）関節脱臼
遠位指節間（DIP）関節脱臼
12. 筋、腱の損傷
末梢神経障害
13. その他の疾患（キーンベック病）
14. その他の手関節・手指部の変形および損傷
15. まとめ

成績の評価

定期試験にて評価する。（80%程度）

また、課題および授業への参加態度も評価に加える。（20%程度）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。
レポート提出後、レポートの解説を実施する。

自己学習

講義にて学習した重要事項についてテキスト上にて確認し、加えて国家試験出題問題も確認すること。
また、テキスト以外の文献も参考にし、臨床に繋がられるよう理解を深めること。
授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「柔道整復学(理論編)」 (南江堂)
「柔道整復学(実技編)」 (南江堂)

講義コード	3J203011
講義名	整復学各論Ⅳ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3005
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 森岡 泰之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

森岡 泰之(柔道整復師)

目的

下肢損傷は生命に関わるもの(骨盤骨折)から、日常的に遭遇するスポーツ外傷まで多岐にわたる。これら骨盤から膝関節までの人体の構造を理解し、骨折や脱臼について各損傷の発生機序、分類、症状、整復法、固定法、後療法、その他(合併症、鑑別診断)について理論を学習する。又教科書記載の知識のみにとどまらず、実際の整骨院・救護現場等の症例についても学習する。

到達目標

各損傷の原理を理解し、下肢損傷に対し診断、整復、固定、後療を実施するための理論を学習し、臨床上必要な知識習得と柔道整復師国家試験合格に必要な知識を習得する。

授業計画表

授業計画

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 骨盤骨骨折 1 | 骨盤の基礎と概説 |
| 2. 骨盤骨骨折 2 | 各部単独骨折 |
| 3. 骨盤骨骨折 3 | 裂離骨折 |
| 4. 骨盤骨骨折 4 | 骨盤輪骨折 |
| 5. 大腿骨近位端部骨折 1 | 大腿骨の基礎と概説・骨頭骨折 |
| 6. 大腿骨近位端部骨折 2 | 頸部内側骨折 1 |
| 7. 大腿骨近位端部骨折 3 | 頸部内側骨折 2 |
| 8. 大腿骨近位端部骨折 4 | 頸部外側骨折 |
| 大転子単独骨折/小転子単独骨折 | |
| 9. 大腿骨骨幹部骨折 | 骨幹部骨折 |
| 10. 大腿骨遠位端部骨折 1 | 顆上骨折/骨端線離解 |
| 顆部骨折/内側側副靭帯部裂離骨折 | |
| 11. 大腿骨遠位端部骨折 2 | 膝蓋骨骨折/分裂膝蓋骨(有痛性) |
| 12. 股関節脱臼 1 | 後方脱臼 |
| 13. 股関節脱臼 2 | 前方脱臼/中心性脱臼/その他 |
| 14. 膝蓋骨脱臼 | 側方脱臼(外側脱臼) |
| 15. 膝関節脱臼 | 前方/後方/側方/回旋 |

成績の評価

定期筆記試験(100%)により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

対象部位(下肢)の運動器解剖学についての予習・復習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「柔道整復学 <理論編>」 (南江堂)

「柔道整復学 <実技編>」 (南江堂)

その他必要に応じて資料を配付

講義コード	3J204011
講義名	整復学各論 V
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3006
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 石床 公一	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

石床 公一（柔道整復師）

目的

下腿部から足趾部までの骨折、脱臼について学習する。

到達目標

下腿部から足趾部までの骨折、脱臼について、解剖学的所見、発生機序、鑑別診断、後遺症、治療法などの知識を身につける。

授業計画表

授業計画

- 1.臨床研修（動画学習）
- 2.下腿部、足部の解剖学
- 3.脛骨顆部骨折、脛骨顆部顆間隆起骨折、脛骨粗面骨折
- 4.腓骨頭単独骨折、脛骨単独骨折および脛腓両骨骨折
- 5.腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折、下腿骨疲労骨折
- 6.果部骨折①（回内・外転損傷、回外・内転損傷）
- 7.果部骨折①（回内・外旋損傷、回外・外旋損傷）
- 8.距骨骨折、踵骨骨折、舟状骨骨折
- 9.立方骨骨折、楔状骨骨折、中足骨骨折、足趾骨骨折
- 10.ショパール関節脱臼、リスフラン関節脱臼、足趾の脱臼
- 11.下肢神経の走行と損傷
- 12.総復習①
- 13.総復習②
- 14.総復習③
- 15.総復習④

成績の評価

前期末にマークシートの試験を実施する。（100％）

テキスト

「柔道整復学理論編」（南江堂）

講義コード	3J207011
講義名	整復学実技Ⅲ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J3-3105
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 石井 規之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

石井 規之（柔道整復師）

目的

前腕部から手指部の骨折・脱臼・軟部組織損傷についての実技の習得。

到達目標

国家試験および臨床に対応する能力の達成。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 前腕骨骨折 実技概論
3. 前腕骨骨幹部骨折 理論1
4. 前腕骨骨幹部骨折 理論2
5. 前腕骨骨幹部骨折 整復法1
6. 前腕骨骨幹部骨折 整復法2
7. 前腕骨遠位端部骨折 理論1
8. 前腕骨遠位端部骨折 理論2
9. 前腕骨位端部骨折 整復法1
10. 前腕骨位端部骨折 整復法2
11. 前腕骨骨折 整復法 実技演習1
12. 前腕骨骨折 整復法 実技演習2
13. 実技評価：前腕骨骨折 整復法
14. 実技評価：前腕骨骨折 整復法
15. 前腕骨骨折 整復法 実技復習1
16. 前腕骨骨折 整復法 実技復習2
17. 前腕骨骨幹部骨折 固定法1
18. 前腕骨骨幹部骨折 固定法2
19. 前腕骨遠位端部骨折 固定法1
20. 前腕骨遠位端部骨折 固定法2
21. 実技評価：前腕骨骨折 固定法
22. 実技評価：前腕骨骨折 固定法
23. 前腕骨骨折固定法 実技復習1
24. 前腕骨骨折固定法 実技復習2
25. 手指部の骨折・脱臼 実技演習1
26. 手指部の骨折・脱臼 実技演習2
27. 手指部の軟部組織損傷 実技演習1

28. 手指部の軟部組織損傷 実技演習2
29. 前腕骨骨折・脱臼・軟部組織損傷 実技演習
30. まとめ

成績の評価

実技試験および定期試験にて評価する。(80%程度)
また、課題および授業への参加態度も評価対象とする。(20%程度)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。
実技試験終了後、解説を実施する。

自己学習

講義にて学習した重要事項についてテキスト上にて確認し、加えて国家試験出題問題も確認すること。また、テキスト以外の文献も参考にし、臨床に繋げられるよう理解を深めること。
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

- 「柔道整復学(理論編)」 (南江堂)
「柔道整復学(実技編)」 (南江堂)

講義コード	3J249011
講義名	太極拳
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J3-2413
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 渡邊 俊哉	指定なし

目的

太極拳は中国の武術の一種であるが、現在では古代の陰陽五行や東洋哲学思想に基づいて行われており、心身のバランスをとるため、その方法の一つにゆっくりと静かに動くといった特徴を持っている。また、心や呼吸を静かに整え、滑らかな動きをすることは、精神的なものばかりでなく、神経系、筋系、循環器系、呼吸器系にも影響を及ぼし、健康法としての効果も認められてきている。本講座ではこれらの効果が期待できる太極拳の理論と技術とを習得する事を目的とする。

到達目標

意味を理解し、楽しめるようになる。生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 太極拳の基本①
2. 太極拳の基本②
3. 太極拳の基本③
4. 太極拳の基本④
5. 動作名：予 備 式 (ユウベイシー)
6. 動作名：起 勢 (チーシー)
7. 動作名：手揮琵琶 (ショウホイピーパー)
8. 動作名：倒 卷 肱 (ダオジェンゴン)
9. 動作名：倒 卷 肱 (ダオジェンゴン)
10. 動作名：野馬分鬚 (イエマフェンゾン)
11. 動作名：野馬分鬚 (イエマフェンゾン)
12. 動作名：単 鞭 (ダンビエン)
13. 動作名：十 字 手 (シーズーショウ)
14. 動作名：収 勢 (ショウシー)
15. 総まとめ

成績の評価

実技試験と参加態度を総合評価する。
また、必要に応じてレポート提出を求める。

自己学習

予習はいらないが、復習として、動きの再確認を行うこと。
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

講義コード	3J273011
講義名	動作分析学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J3-2308
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 俊明	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木俊明 [理学療法士]

目的

柔道整復師に必要な評価のひとつに、動作分析がある。患者さんの異常動作を理解するには、健康者の正常動作を理解する必要がある。この講義では、正常動作を理解し、患者さんの異常動作の特徴を理解できるように講義する。

到達目標

正常動作の理解を深め、運動学的に動作を理解できる。

授業計画表

授業計画

- 1 動作分析概論 1
- 2 動作分析概論 2
- 3 運動と現象 1
- 4 運動と現象 2
- 5 運動と現象 3
- 6 運動と現象 4
- 7 椅子からの立ち上がり動作 1
- 8 椅子からの立ち上がり動作 2
- 9 椅子からの立ち上がり動作 3
- 10 歩行動作 1
- 11 歩行動作 2
- 12 歩行動作 3
- 13 歩行動作 4
- 14 上肢挙上動作 1
- 15 上肢挙上動作 2

成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。復習では、授業で勉強した解剖学、運動学の知識を再度学習する。

参考資料

「臨床理学療法評価法」 (アイペック)

オフィスアワー

火曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D724研究室 suzuki@kansai.ac.jp

講義コード	3J705011
講義名	整復学各論VI
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3007
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井口 理	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井口 理（柔道整復師）

目的

柔道整復師が施術を認められている⁵疾患（骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷）のうち、骨折・脱臼以外の軟部組織損傷についてそれぞれの病態や特徴について学び、これまで学んだ知識をもとに、上肢の軟部組織損傷の発生機転、症状などを学んだうえで、それらを鑑別するための検査法を習得する。

到達目標

捻挫・打撲・挫傷の基本的な知識を身につけ、問診から検査に至るまでの評価法の基礎を習得する。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス肩部および上腕部の損傷（1）
2. 肩部および上腕部の損傷（1）
3. 肩部および上腕部の損傷（2）
4. 肩部および上腕部の損傷（3）
5. 肩部および上腕部の損傷（4）
6. 肩部および上腕部の損傷（5）
7. 肘部および前腕部の障害（1）
8. 肘部および前腕部の障害（2）
9. 肘部および前腕部の障害（3）
10. 肘部および前腕部の障害（4）
11. 肘部および前腕部の障害（5）
12. 手関節および手指部の障害（1）
13. 手関節および手指部の障害（2）
14. 手関節および手指部の障害（3）
15. 手関節および手指部の障害（4）

成績の評価

定期試験100%（但し、定期試験を受験するためには、授業時間中に実施する検査法の実技試験に合格する必要がある）。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験修了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
解剖学（骨・関節・筋学）・基礎運動学を可能な限り復習しておくこと。

テキスト

「柔道整復学（理論編）」（南江堂）

「柔道整復学（実技編）」（南江堂）

授業中に配布する実技マニュアル

オフィスアワー

木曜日：放課後～18:00(その他、在室時は何時でも対応します。メールでも構いません)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3F308研究室

講義コード	3J708011
講義名	整復学実技Ⅳ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J3-3005
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 森岡 泰之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

森岡 泰之（柔道整復師）

目的

下肢の骨折および脱臼に対し整復学各論の理論と関連し、実際の人体各部位を把握し、各損傷に対して整復や固定、各種検査等臨床上現場で対応できる実技を実施する。また固定に必要な用具の作成をする。

到達目標

模擬実技として骨折や脱臼の整復、各種徒手検査法を実施する。
また、自分で固定に必要な用具を作成しその方法を習得する。
臨床上の重要なポイントについて理解する。
整骨院・救護等実際の症例に合わせ各対応可能な実技を習得する。

授業計画表

授業計画

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 下肢損傷の概要 | 体表解剖/触診 |
| 2. 大腿骨頸部骨折 1 | 整復実技 |
| 3. 大腿骨骨幹部骨折 | 整復実技 |
| 4. 膝蓋骨骨折 1 | 整復実技/固定具作成 |
| 5. 膝蓋骨骨折 2 | 固定実技 |
| 6. 股関節脱臼 1 | 整復実技 |
| 7. 股関節脱臼 2 | 固定具作成/固定実技 |
| 8. 膝蓋骨脱臼 1 | 整復実技/固定具作成 |
| 9. 膝蓋骨脱臼 2 | 固定実技 |
| 10. 膝関節脱臼 | 固定具作成/固定実技 |
| 11. 各整復法の総合学習 | (まとめ) |
| 12. 各整復法の総合学習 | (試験) |
| 13. 各固定法の総合学習 | (まとめ) |
| 14. 各固定法の総合学習 | (試験) |
| 15. 応用実技 | キャスト固定 |

成績の評価

実技試験(100%)により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実技試験終了後、改善点等について指導する。

自己学習

下肢各部損傷に対する整復・固定理論についての学習。
体表解剖の復習と実技の反復練習。
授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「柔道整復学 <理論編>」 (南江堂)

「柔道整復学 <実技編>」 (南江堂)

実技マニュアル

その他必要に応じて資料を配付

講義コード	3J709011
講義名	整復学実技V
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J3-3107
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 石床 公一	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

石床 公一（柔道整復師）

授業計画表

授業計画

1. 下肢固定材料の作成 ①
2. 下肢固定材料の作成 ②
3. 下肢固定の実習 ①
4. 下肢固定の実習 ②
5. 下肢固定の実習 ③（チェックテスト）
6. 包帯実技 ①
7. 包帯実技 ②（チェックテスト）
8. 整復実技 ①
9. 整復実技 ②
10. 整復実技 ③
11. 整復実技 ④（チェックテスト）
12. 後療法 ①
13. 後療法 ②（チェックテスト）
14. 総復習 ①
15. 総復習 ②

成績の評価

前期末にマークシート試験を実施する。

履修上の注意

白衣を着用すること。

テキスト

「柔道整復学理論編」（南江堂）

講義コード	3J709021
講義名	整復学実技VI
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J3-3108
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井口 理	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井口 理（柔道整復師）

目的

柔道整復師が施術を認められている5疾患（骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷）のうち、骨折・脱臼以外の軟部組織損傷についてそれぞれの病態や特徴について学び、これまで学んだ知識をもとに、頭部・頸部・体幹・下肢の軟部組織損傷の発生機転、症状などを学んだうえで、それらを鑑別するための検査法を習得する。

到達目標

捻挫・打撲・挫傷の基本的な知識を身につけ国家試験に対応するとともに、臨床に対応する評価法の基礎を習得する。

授業計画表

授業計画

1. 頭部・顔面の軟部組織損傷
2. 頸部の軟部組織損傷（1）
3. 頸部の軟部組織損傷（2）
4. 頸部の軟部組織損傷（3）
5. 頸部の軟部組織損傷（4）
6. 実技試験（1）
7. 実技試験（2）
8. 胸・背部の軟部組織損傷
9. 腰部の軟部組織損傷（1）
10. 腰部の軟部組織損傷（2）
11. 股関節の軟部組織損傷（1）
12. 股関節の軟部組織損傷（2）
13. 股関節の軟部組織損傷（3）
14. 股関節の軟部組織損傷（4）
15. 大腿部の軟部組織損傷（1）
16. 大腿部の軟部組織損傷（2）
17. 大腿部の軟部組織損傷（3）
18. 大腿部の軟部組織損傷（4）
19. 膝関節部の軟部組織損傷（1）
20. 膝関節部の軟部組織損傷（2）
21. 膝関節部の軟部組織損傷（3）
22. 膝関節部の軟部組織損傷（4）
23. 足関節部の軟部組織損傷

24.足・趾部の軟部組織損傷

25.実技試験（1）

26.実技試験（2）

27.軟部組織損傷に対する固定法（1）

28.軟部組織損傷に対する固定法（2）

29.軟部組織損傷に対する固定法（3）

30.軟部組織損傷に対する固定法（4）

成績の評価

定期試験100%（但し、定期試験を受験するためには、授業時間中に実施する検査法の実技試験に合格する必要がある）。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実技試験は試験終了後に個別に指導する。

定期試験は試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。とくに解剖学（骨・関節・筋学）・基礎運動学を可能な限り復習しておくこと。

テキスト

『柔道整復学（理論編）』（南江堂）

『柔道整復学（実技編）』（南江堂）

授業中に配布する実技マニュアル

オフィスアワー

木曜日：放課後～18:00（その他、在室時はいつでも対応します。メールでも構いません）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3F308研究室 iguchi@kansai.ac.jp

講義コード	3J710011
講義名	救急医療と看護
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J3-2306
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美輪子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

神戸美輪子〔看護師〕

阿部香織〔看護師〕

目的

急激な健康状態の変化や外傷により、身体の危機的状況にある傷病者の観察・アセスメントと初期対応の方法を学習する。家庭・職場・学校などで人々が社会生活を営むすべてのシーンで展開されるプレホスピタルケアを学習し、緊急時の傷病者・家族への身体的・心理的援助について学ぶ。

到達目標

1. 緊急時における観察・アセスメントの視点が理解できる。
2. 緊急時に悪化を防ぎ速やかに回復につなげるための対処方法が理解できる。
3. 救急時の傷病者・家族に対する援助について考えることができる。

授業計画表

授業計画

1. 救急医療の現状と応急処置の基本
2. 救急医療における法律と倫理・傷病者と家族の理解
3. 応急処置施行者としての基本的知識と技術・災害時の対応
4. 傷病者の観察とアセスメントの視点
5. 症状別応急処置（1） 創傷と循環
6. 症状別応急処置（2） 骨・関節・筋肉の損傷
7. 症状別応急処置（3） 呼吸器系の障害
8. 応急処置技術（1） 傷病者の搬送（神戸・阿部）
9. 症状別応急処置（4） 脳神経系の障害
10. 症状別応急処置（5） 高温と低温による障害
11. 症状別応急処置（6） 異物・中毒・咬傷と刺創
12. 症状別応急処置（7） 急性腹症・その他の疾患
13. 症状別応急処置（8） ショック
14. 応急処置技術（2） 緊急時の対応・心肺蘇生（神戸・阿部）
15. まとめ

成績の評価

試験80%，応急処置技術演習後のレポート20%

演習に欠席した場合は、演習後のレポート提出ができませんので、注意して下さい。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。復習では、各回の重要ポイントの理解を深めること。

履修上の注意

テキスト

「アトラス応急処置マニュアル 原書第9版増補版」（南江堂）

オフィスアワー

水曜日 12:00～12:40

研究室・授業用E-mail

5号館7階 714研究室

kanbe@kansai.ac.jp

講義コード	3J713011
講義名	整復治療学Ⅲ（実技）
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J3-3111
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 尾原 弘恭	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

尾原弘恭〔柔道整復師〕
 織田育代〔柔道整復師、スポーツプログラマー〕
 相澤慎太〔健康運動指導士、スポーツプログラマー〕

目的

柔道整復師の施術対象となる外傷の後療法について運動療法を中心に学ぶ。
 当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されています。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援します。

到達目標

外傷の施術プログラムを組み立て、それを実践できること、また、プログラム組み立てにあたり、施術の先行研究や先行事例を検索、情報収集ができ、それらを適正に活用できることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス（尾原）
2. 後療法総論（尾原）
3. 組織の修復①（織田）
4. 組織の修復②（織田）
5. 関節可動域・柔軟性（尾原）
6. 神経・筋協調性（尾原）
7. 外傷の施術プログラム総論①（尾原）
8. 外傷の施術プログラム総論②（尾原）
9. 先行研究・先行事例①（尾原）
10. 先行研究・先行事例②（尾原）
11. 先行研究・先行事例③（尾原）
12. 手技・ストレッチング実践①（織田）
13. 手技・ストレッチング実践②（織田）
14. 手技・ストレッチング実践③（織田）
15. 手技・ストレッチング実践④（織田）
16. エクササイズ総論（相澤）
17. エクササイズ実践①（相澤）
18. エクササイズ実践②（相澤）
19. エクササイズ実践③（相澤）
20. エクササイズ実践④（相澤）

21. エクササイズ実践⑤ (相澤)
22. エクササイズ実践⑥ (相澤)
23. 外傷の施術プログラム各論① (アスリートと高齢者) (尾原)
24. 外傷の施術プログラム各論② (上肢・体幹部の外傷) (尾原)
25. 外傷の施術プログラム各論③ (上肢・体幹部の外傷) (尾原)
26. 外傷の施術プログラム各論④ (下肢の外傷) (尾原)
27. まとめ (尾原)
28. 発表 (尾原)
29. 発表 (尾原)
30. 発表 (尾原)

成績の評価

前期：授業内での発表 (レジュメ20%、プレゼン20%) + 定期試験 (60%：尾原30%+織田30%)

後期：授業内での発表 (レジュメ10%、プレゼン30%、レポート30%) + 定期試験 (30%：相澤)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。レポート等については授業内での発表時にフィードバックする。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。これまで学んだ柔道整復関連ならびに健康運動関連科目の復習しておくこと。

テキスト

特になし。

参考資料

授業内で紹介する。

オフィスアワー

前期：水曜日 13:00～17:00

後期：木曜日 13:00～17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階310研究室

ohara@kansai.ac.jp (尾原)

講義コード	3J720011
講義名	医療英語
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1310
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

目的

- ・ 様々な医療従事者が共通して知っていなければならない医療英語を身につけること。
- ・ 医療現場で少しでも英語が使えるようになること。

到達目標

- ・ 医療に関する一般的な事柄を英語で理解できる。
- ・ 各種国家資格の医療従事者の業務内容を英語で理解できる。

授業計画表

授業計画

1. 人体について(1)
2. 人体について(2)
3. 高カロリーと健康(1)
4. 高カロリーと健康(2)
5. 伝染病(1)
6. 伝染病(2)
7. 個人と公衆の衛生管理(1)
8. 個人と公衆の衛生管理(2)
9. 日本の医療の改善策(1)
10. 日本の医療の改善策(2)
11. 医療における「針刺し損傷」(1)
12. 医療における「針刺し損傷」(2)
13. 北里柴三郎と日本の医療(1)
14. 北里柴三郎と日本の医療(2)
15. 前期のまとめ
16. 臨床検査技師の仕事(1)
17. 臨床検査技師の仕事(2)
18. 臨床工学技士の仕事(1)
19. 臨床工学技士の仕事(2)
20. 診療放射線技師の仕事(1)
21. 診療放射線技師の仕事(2)
22. 理学療法士の仕事(1)
23. 理学療法士の仕事(2)
24. 作業療法士の仕事(1)
25. 作業療法士の仕事(2)
26. 言語聴覚士の仕事(1)
27. 言語聴覚士の仕事(2)
- 28.

視覚機能療法

29. チーム医療の必要性

30. 後期のまとめ

成績の評価

定期試験70%、小テストおよび課題提出30%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点済みの定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

The Hospital Team: English for Medical Specialists (南雲堂)

オフィスアワー

月曜日以外の昼休み時間(12:10~13:10)

研究室・授業用E-mail

5号館7階C702研究室h-yoshida@kansai.ac.jp

講義コード	3J736011
講義名	リスクマネジメント論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医療複合
科目ナンバリング	J3-2307
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 尾原 弘恭	指定なし

目的

柔道整復師の業務を中心に医療機関やスポーツの現場など様々な場面で発生する事故（アクシデント）や事故に結びつく可能性のある事象（インシデント）について分析と評価を通じて、リスクマネジメントの在り方や、具体的な対処や防止方法に関する知識を習得する。

到達目標

医療機関やスポーツ現場などでのリスクマネジメントについて理解し、事故防止ができる。

授業計画表

授業計画

1. リスクマネジメントの概要
2. インシデントとアクシデント
3. 病態の把握、医師との連携
4. 頭部外傷におけるリスクマネジメント
5. 体幹部外傷におけるリスクマネジメント
6. 四肢外傷におけるリスクマネジメント
7. 物理療法におけるリスクマネジメント①
8. 物理療法におけるリスクマネジメント②
9. 感染に関するリスクマネジメントの概要
10. 病原微生物と感染防止
11. 感染予防①
12. 消毒・滅菌①
13. 消毒・滅菌②
14. 訴訟に関するリスクマネジメント
15. まとめ

成績の評価

筆記試験により評価して判定する。（100%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

※特に「整復学総論」「整復学各論」「衛生学・公衆衛生学」で学習した関連する領域を復習しておくこと。

テキスト

「柔道整復師のための医療安全学」（南江堂）

「柔道整復学 理論編」 (南江堂)

「衛生学・公衆衛生学」 (南江堂)

参考資料

「リハビリテーション医療における安全推進のためのガイドライン」 (医歯薬出版)

「医療従事者のための医療安全対策マニュアル」

<http://www.med.or.jp/anzen/manual/pdf/honbun.pdf>

日本医師会

「感染の理解と消毒・滅菌の看護へのいかしかた」 (医歯薬出版)

オフィスアワー

前期：水曜日13:00～17:00

後期：木曜日13:00～17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階310研究室

ohara@kansai.ac.jp

講義コード	3J739011
講義名	リハビリテーション論Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	疾病と傷害
科目ナンバリング	J3-2107.T
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 隆紀	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

吉田隆紀((理学療法士・スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・日本トレーニング指導者)
鬼形周恵子(理学療法士・鍼灸師)

目的

リハビリテーションの理念に基づき、社会的な貢献を実現するにあたって多くの方法がある。本講義では、リハビリテーションの定義や障害分類などの基本的な知識と医学的リハビリテーションの具体的な考え方やリハビリテーションの方法について学習し、理解することを目的とする。

到達目標

リハビリテーションの概要を把握し、疾患別のリハビリテーションへの導入をスムーズにできるようになること。

授業計画表

授業計画

1. リハビリテーションの概念(吉田)
2. 障害学（総論）(吉田)
3. 上肢・体幹の機能解剖(吉田)
4. 下肢の機能解剖(吉田)
5. 障害学と治療学①（関節拘縮と変形、関節可動域練習）(吉田)
6. 障害学と治療学②（神経麻痺、筋萎縮、筋力増強訓練）(吉田)
7. 補装具(吉田)
8. 評価学①（総論)(鬼形)
9. 評価学②（身体計測）(鬼形)
10. 評価学③（関節可動域測定法)(鬼形)
11. 評価学④（徒手筋力検査法)(鬼形)
12. 評価学⑤（中枢性運動障害の評価法①)(鬼形)
13. 評価学⑥（中枢性運動障害の評価法②)(鬼形)
14. リハビリテーションの治療（理学療法)(鬼形)
15. 物理療法(鬼形)

成績の評価

定期試験によって評価する。（100%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業内容と関連した範囲の解剖学や生理学などをしっかり復習すること。

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

日本トレーニング指導者協会認定の「トレーニング指導者」の指定科目になっています。

テキスト

「リハビリテーション医学 改訂第三版」(南江堂)

オフィスアワー

水曜日と金曜日以外の12:10~13:00(吉田)

火曜日と木曜日の12:10~13:00(鬼形)

研究室・授業用E-mail

4号館7階D719研究室(吉田)・t.yoshida@kansai.ac.jp

4号館5階理学療法学科教員室(鬼形)・onigata@kansai.ac.jp